



福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう 132

ニリンソウ

分類：キンポウゲ目 キンポウゲ科

大きさ：15～25cm

生育している環境

- ・木陰がある湿った場所

小鳥の森で見られる時期

- ・4月～5月
- ・カタクリの花が終わる頃に観察できる

小鳥の森で見られる場所

- ・カワセミの小径（木陰沢）



葉の中心から2輪の花を咲かせる

みやざわ かれん さん（6才）が描いてくれました。

4月 森のココに注目

スミレの起床

春の陽光に目をすぼめる4月。夜と昼の気温差がだんだんと小さくなり、植物や虫たちが目を覚まし始める季節です。

小鳥の森の林床ではスミレが顔をのぞかせるようになります。スミレの間には花卉の奥に距（きょ）と呼ばれる蜜の入った袋状の突起があります。虫たちが蜜欲しさに花に潜ると、距の近くの葯（やく）から花粉が出て虫に付く仕組みになっています。食事を終えた虫が次のスミレを訪れると、先ほどの花粉がこのスミレの雌しべの先に付きます。こうやってその場を動けないスミレは受粉をするのですね。

小鳥の森に生育しているスミレは13種類あります。4月になると、園内では最も良く見られるマキノスミレやナガハシスミレなどが春を知らせてくれます。ひっそりと冷えていた森が少しずつ賑やかに暖かくなってゆく変化は、何度味わってもうれしく感じます。



マキノスミレ



ナガハシスミレ

春へ引き繋がります

例年に比べ急激に暖かさが増した3月。小鳥の森ではシジュウカラやヤマガラなどのさえずりが2月よりもよく聞こえるようになりました。みなさんも春になると耳にする「ホーホケキョ」。ウグイスのさえずりは小鳥の森では昨年より6日早い3月3日に確認されました。初鳴きのさえずりは、やや慣れていない印象にありましたが、また春が巡ってきたことが感じられる心が癒される合図でした。

また、真冬の時期にネイチャーセンター付近で見られていたアトリの数が心なしか少なくなってきました。だんだんと故郷の北の地へ帰る旅支度をしているのでしょうか。



ウグイス

- ・ ささやぶなどの、うす暗い場所が好き
- ・ 姿を見るのは難しい

スタッフだより

春の山菜

春になると植物が芽生え始め、山菜を目にする機会も増えるのではないのでしょうか。私が山菜と聞いてまず初めに思いつくのはヨモギです。最近ヨモギ餅を食べたからかもしれません。ヨモギはキク科の植物で、道端や水路脇など比較的どこでも見られる身近な山菜です。3~5月が旬で、餅やお茶など食用にする他、薬やお灸にも使用されています。

古来から日本では3月3日の桃の節句に菱餅を供え食べる風習があります。現在は3色の重ね餅ですが、以前は緑一色でした。中国から伝わった当初は、母と子が健やかに過ごせることを願って、ハハコグサを練りこんだ草餅でしたが、いつしか良い香りに邪気を払う力があるとされるヨモギに変化していきました。

桃の節句は過ぎてしまいましたが、ヨモギを始め新芽が次々と土中や枝から顔を出す光景は、命の始まりを連想させ、おめでたい気持ちになりますね。

(レンジャー たしまひとみ)

イベント報告

お山の大将あつまれ！活動報告

3月5日（日）に今年度最後の活動がありました。今回のテーマは「木の枝パチンコ作り」。メンバーは材料になるY字型の落ちている枝を森の中から探し、ノコギリを使って上手に好みの長さに切りました。その後は、それぞれが工夫をしながら輪ゴムを枝に巻き、試し打ちをしました。遠くまで飛ばせる子、うまく飛ばせずに調節をする子。一つとして同じものがないオリジナルのパチンコで、最後にチーム対抗戦的当てゲームを行いました。



木の枝パチンコづくり



実際に飛ばす様子

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧ください。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2023年4月号№443 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / NPO法人野鳥の会ふくしま 小鳥の森HP

